

# 福島県の復興、水素に託す

## 相馬ガス 渋佐克之会長の挑戦

福島県東部の「浜通り」は、東日本大震災の津波と原発事故で大きな被害を受けた。この地で都市ガス、LPガスなど総合エネルギー事業を展開する相馬ガスホールディングスは2017年9月、浜通りで初となる水素ステーションを整備した。燃料電池時代の到来を信じる渋佐克之相馬ガス会長は「水素社会移行の先駆けとなる」とその復興に託す。渋佐さんの挑戦が始まった。(大野 輝雄)

浜通りは、北は新地町・相馬市から南はいわき市まで、太平洋に面する福島県東部地域を指す。沿岸部は、夏は涼風が吹き、冬は阿武隈高地が北西の季節風を遮るため雪もめったに積もらない暮らしやすい場所だ。

なる相馬氏が長期にわたる居城を置いた。相馬ガスが本社を置く南相馬市では、1000年の歴史を刻む伝統行事、相馬野馬追(国の重要無形民俗文化財)が行われる。

### 未来に希望を

また、歴史に彩られた土地柄で、平安時代には征夷大将軍・坂上田村麻呂が蝦夷討伐に際し、この地に城を構え、戦国、江戸時代には平将門に連

この地域は地盤が固く、東日本大震災でも中心地の被害は比較的軽微だった。だが、沿岸部は津波で多数の犠牲者を出

した。また、福島第一原発の放射能漏れ事故が市民の生活に深刻な影響を与えた。

かけ、これがゴーストタウンなのかと怖くなった」と渋佐さんは振り返る。

市域の大部分が原発30km圏にかかる南相馬市には屋内退避の指示が出た。だが、市民の多くは放射能を恐れて遠方に逃

そうした中でも、相馬ガスではガスの火を絶やすまいと、社員の5人に1人が決死の覚悟で残留し、業務を継続した。

「震災前に約7万2000人あった人口は一晩で約8000人に激減した。人けのなくなった通りに、ひもを食いちぎって逃げた飼い犬を見

それから7年近くが経過し、市内は平静を取り戻している。相馬ガスの陣容も元に戻った。除染作業はほぼ完了し、市の人口は約5万人まで回復



燃料電池車に水素を充填する渋佐会長(左)と桜井勝延南相馬市長



ホンダの燃料電池自動車「クラリティ」を社用車として導入した

## 浜通り初の水素S T